

報道関係各位

【国立劇場】5月雅楽公演『舞楽』  
国立劇場4年ぶりの出演  
宮内庁式部職楽部の演奏で千年の芸能を堪能する



「納曾利」国立劇場第70回雅楽公演より

王朝文化が花開いた平安時代、日本古来の芸能と大陸から渡来した芸能が融合する形で完成した雅楽は、千年以上の長きにわたり、宮中を中心に脈々と受け継がれてきました。

とはいえ、雅楽というものは漠然と知っていても、ご覧になったことがある人はそう多くないのでは？  
「いかめしい衣裳の人がゆっくり動く舞踊」「あれでしょ、サグラダ・ファミリアみたいな楽器をファンと吹くやつ」「神様が出てくる時の音楽でしょ」「こないだテレビでちっちゃい笛を吹いてたけど、あれかしら」etc.  
その高い芸術性は、日本のみならず世界でも高い評価を得ており、ユネスコの無形文化遺産にも登録されている、日本が誇る世界最古級の芸能なのに、それを全く知らずにいるのはもったいない。  
とは言うけれど、何から手をつけていいやら、どうにもこうにも取り付く島がない……

そんな方たちにも、ピッタリの公演が、国立劇場5月雅楽公演「舞楽」です。  
演奏は国立劇場には実に4年ぶりの出演となる宮内庁式部職楽部です。  
楽部は、雅楽の代表的な継承者として、重要無形文化財「雅楽」保持者にも認定されている、雅楽演奏のエキスパート。また、今回は「舞楽」の代表的な曲をずらりと揃えました。  
我が国が千二百年受け継いできた芸能を堪能するまたとないチャンスです。

報道各位におかれましては、本件の一般の皆様への周知にご協力を賜りますようお願い申し上げます。

【本件に関するお問い合わせ】

国立劇場 宣伝課 担当:三浦每生(みうらつねお)

TEL 03-3265-6163

FAX 03-3265-8872

E-Mail: tsuneo-m@ntj.jac.go.jp

独立行政法人 日本芸術文化振興会



## 舞楽は音楽あり、舞あり 宮中のエンターテインメント

雅楽と言ったり、舞楽と言ったり、何が違うの？

雅楽には大きく分けて二種類の上演形態があり、音楽だけを演奏するのが「管絃」、音楽と舞を演じるのが「舞楽」です。まさに宮中の大エンターテインメント。

舞楽は中国大陸から渡来した音楽や舞を源流とする「左方(左舞)」、朝鮮半島から渡来した音楽や舞を源流とする「右方(右舞)」に分かれます。例の“サグラダ・ファミリアみたいな楽器”である「笙」には、実は音の出ない管も混じっていて、「左方」でしか使われません。旋律に合わせて舞う「左方」に対して、「右方」はリズムに合わせて舞うなど、「左方」と「右方」は、その名の通り対照的です。

今回の公演では、「左方」「右方」それぞれ、スローテンポで優雅な舞である「平舞」と、アップテンポで躍動的な「走舞」の代表的な曲を上演しますので、双方の違いを理解しながら鑑賞していただけます。

・「雅楽」についてもっと詳しく知りたい方は

文化デジタルライブラリー「雅楽」 [雅楽 GAGAKU | 文化デジタルライブラリー](#)



左方の走舞「還城楽」

平成 22 年宮内庁式部職楽部秋季雅楽演奏会より  
撮影＝青木信二



右方の平舞「白浜」

平成 25 年宮内庁式部職楽部春季雅楽演奏会より  
撮影＝青木信二

## 雅楽演奏のエキスパート 宮内庁楽部の演奏を堪能

宮内庁式部職楽部は、千年以上の長きに渡り脈々と受け継がれてきた雅楽の代表的な継承者です。

雅楽は、宮中の儀式や饗宴、春・秋の園遊会などの行事に演奏されているほか、皇居内で毎年春秋の演奏会を開催していますが、新型コロナウイルス感染拡大の影響により、ここ数年演奏会は開催を見合わせており、楽部の演奏を聴く機会是一般にほとんどありませんでした。

国立劇場の雅楽公演にも、実に4年ぶりの出演で、ファンにとっては待望の公演です。興味はありつつも、まだ雅楽に触れたことのない方々にとっても、またとない公演となっています。

悠久の時を超えて受け継がれる舞楽を、雅楽演奏のエキスパート・宮内庁楽部の演奏で心行くまで堪能することができます。

国立劇場 宣伝課 担当：三浦每生(みうらつねお)

TEL 03-3265-6163

FAX 03-3265-8872

E-Mail: tsuneo-m@ntj.jac.go.jp

独立行政法人 日本芸術文化振興会

 **国立劇場**

## 作品解説

### 左方「<sup>げんじょうらく</sup>還城楽」(走舞)

蛇を食す西域の人々が蛇を得た喜びを表現した舞とされています。また、唐の李隆基(後の玄宗皇帝)が韋后を討って帰京した際に作成されたという説もあります。

蛇と<sup>ぼち</sup>椀を持って舞う一人舞で、左方・右方の舞をもつ珍しい楽曲。今回は左方の舞を上演します。

### 右方「<sup>ほうびん</sup>白浜」(平舞)

<sup>こま</sup>高麗<sup>そうじょう</sup>双調の平舞で、由来は不明とされています。

途中、装束の肩をぬいで<sup>したがさわ</sup>下襲を出す「<sup>かたかたぬぎ</sup>片肩袒」となり、見た目の印象が大きく変わるのが注目のポイントです。

### 左方「<sup>きしゅんらく</sup>喜春楽」(平舞)

<sup>おうしきちよう</sup>黄鐘調の平舞で、唐で作られた、大安寺の僧が作曲した等の諸説があります。

「白浜」同様、途中で「片肩袒」となり、「左方」「右方」の違いをお楽しみいただけます。

### 右方「<sup>なそり</sup>納曾利」(走舞)

「<sup>そうりゆうまい</sup>双龍舞」の別名の通り、雌雄の龍が楽しそうに遊ぶ姿の舞だといわれています。

走舞では唯一、二人で舞う楽曲で、<sup>だだいこ</sup>鼉太鼓の迫力を感じていただける作品です。

## 出演者プロフィール

### 宮内庁式部職楽部

千数百年の歴史をもつ雅楽の伝承を守る宮内庁式部職楽部〔通称、宮内庁楽部〕は、後継者の育成に加えて、雅楽の普及をはかるために国内外での演奏会を広く行っています。

演奏は、宮中の儀式や饗宴(きょうえん:もてなすための酒宴)、春・秋の園遊会などの行事の際に行われるほか、昭和31(1956)年から文化団体や一般に公開するため、毎年春・秋の2回演奏会が開催されています。さらに、文化庁や教育委員会の要請による地方公演や、国立劇場での公演を年1回ほど開催しています。

このような宮内庁楽部の活動は日本国内だけにとどまらず、昭和34(1959)年にニューヨークの国際連合本部〔国連〕の総会議場で初めて海外公演を行ったのを皮切りに、世界各地で公演を行っています。

国立劇場 宣伝課 担当:三浦每生(みうらつねお)

TEL 03-3265-6163

FAX 03-3265-8872

E-Mail: tsuneo-m@ntj.jac.go.jp

独立行政法人 日本芸術文化振興会



# 国立劇場 5月雅楽公演 **舞楽**



「<sup>きしゅんらく</sup>喜春楽」国立劇場第50回雅楽公演より

左方 還城楽

右方 白 浜

左方 喜春楽

右方 納曾利

※休憩あり

## 【公演詳細】

令和4年5月28日(土) 午後2時開演(午後4時終演予定)

国立劇場 大劇場(〒102-8656 千代田区隼町4-1)

【料金】 1等席 5,500円(学生3,900円)

2等席 4,500円(学生3,200円)

※障害者の方は2割引です。また車椅子用スペースがございます。

## チケットのお求めは

国立劇場チケットセンター 0570-07-9900

【インターネット】

国立劇場チケットセンター

検索

<https://www.ntj.jac.go.jp/>

国立劇場 宣伝課 担当:三浦每生(みうらつねお)

TEL 03-3265-6163

FAX 03-3265-8872

E-Mail: tsuneo-m@ntj.jac.go.jp

独立行政法人 日本芸術文化振興会



# 国立劇場